

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	岩手県・住田町	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	気仙伝統文化の継続的活性化事業	【計画の改善時期】 平成30年度	
4 実施計画期間	平成 30 年度 ～ 平成 34 年度		
5 実施計画の概要			
<p>本事業では、平成26年度には信仰習俗を、27年度には生業習俗を記録し、平成28年度からは6年計画で住田町の民俗芸能の悉皆調査に着手し、平成29年度には文化財紹介サイトを立ち上げた。平成30年度からはさらに地域と連携し、情報発信、普及啓発、人材育成に取り組み、継続的に気仙地方の民俗文化財の維持と継承を図っていく。</p>			
6 実施体制			
<p>実施団体：気仙伝統文化活性化委員会 029-2396 岩手県 気仙郡住田町世田米字川向88-1 住田町教育委員会内</p> <p>担当：住田町教育委員会事務局生涯学習係 029-2396 岩手県 気仙郡住田町世田米字川向88-1 住田町教育委員会内</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 37,889 千円	平成30年度申請額： 11,283 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>平成29年度の「気仙伝統文化の継続的活性化事業」を継続して今後とも地域の伝統文化の保存・継承・活用・調査・教育・普及に包括的継続的に関わり、地域におけるCultural Sustainability（カルチュラル・サステナビリティ＝文化の持続可能性）確立を可能とする。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：	住田町の民俗芸能悉皆調査（6年計画の3年目）		
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	住田町教育委員会 社会教育課		

様式 1-1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	けせん文化遺産情報発信ウェブサイト多言語対応事業	実施団体：	気仙伝統文化活性化委員会			
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成 30 年度 ~ 平成 30 年度			
事業概要：	<p>気仙伝統文化活性化委員会では、平成29年度に文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）を受けて、旧気仙郡（陸前高田市、大船渡市、住田町の二市一町）の民俗文化を紹介する「けせん文化遺産情報発信ウェブサイト」を構築した。平成30年度には、その機能を拡張して多言語対応（3語を追加）とすることで、外国人の利用を促して来訪者増につながるウェブサイトとする。</p>					
評価指標区分：	・ホームページ閲覧数（PV数）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	平成30年度の閲覧数を100として平成35年度に指数130を確保する。うち海外からのアクセス比率の向上をめざす。					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 100 指数 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 100 指数					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
100 指数	106 指数	112 指数	118 指数	124 指数	130 指数	
#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
事業②：	けせん文化財検定事業	実施団体：	気仙伝統文化活性化委員会			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 30 年度 ~ 平成 40 年度			
事業概要：	<p>平成26年度からの「ヘリテージマネージャー講座」や「文化財ガイド養成事業」の受講者の成果を数値化し、今後の文化財ボランティア運用にあたっての指標とするために、「けせん文化財検定」を立ち上げる。検定業務は一般社団法人ケセンきらめき大学が実施し、その準備用のテキストを気仙伝統文化活性化委員会が住田町、大船渡市、陸前高田市の各教育委員会の後援を受けるとともに、各民俗芸能保存会連合会や地域ボランティア団体古文書を読む会等の協力を得て、さらには有識者の監修の下に作成する。検定希望者は気仙の文化財10分野（1有形の文化財(1)史跡建造物(2)美術工芸品(3)伝統道具類(4)文化的景観(5)天然記念物、2無形の文化財(1)年中行事(2)習俗生業(3)古典芸能(4)民俗芸能(5)伝統技術、3震災遺構）に関する講習会でこのテキストを使用する。テキストの内容は平成29年度に構築した「けせん文化遺産情報発信ウェブサイト」の内容とも連動するものである。</p>					
評価指標区分：	・ボランティアガイド育成講座修了者の後年度活動者数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	<p>上述のように平成30年度は準備期間となるため評価対象は完成されたテキストと構築された検定制度となる。 平成31年度以降は、毎年100名の受検者を見込み、5年後にテキストの一部増補をおこない、平成40年度までの10年間を開催目標とする。（当初印刷のテキスト500部は平成35年までに費消する）このうち10%を1級合格者と想定しその半数が文化財ボランティアガイドの常時稼働者と見込む。そのため、平成40年度においては累計100名のボランティアが活動する。</p>					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 0 名 ⇒ 【目標値】 平成 40 年度 100 名					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
0 名	10 名	20 名	30 名	40 名	50 名	
0%	10%	20%	30%	40%	50%	

事業③：	けせんのたから（気仙民俗芸能祭）	実施団体：	気仙伝統文化活性化委員会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 30 年度	～	平成 30 年度	
事業概要：	<p>平成28年度から継続実施。披露される芸能を鑑賞するだけでなく、上演機会、後継者育成、行政支援など。地域や団体や芸能の姿を、出演団体や有識者と来場者で確かめ、芸能をより力強く伝承していく道をさぐる、より深い理解と啓発をめざす講演付き公演を、年1回継続実施する。</p> <p>平成28年度「鹿踊」、平成29年度「権現さま」につづき、平成30年度は「神楽」または「剣舞」の比較公演を実施する。</p>					
評価指標区分：	・フェスティバル出演団体の保存会会員数	(具体的な指標は次のとおり)				
具体的な指標：	震災後の人口流出に加え、少子高齢化に曝される地域にあって、5年後にも現在の保存会会員数を維持する。					
目標値：	【現状値】 平成 30 年度 100 指数 ⇒ 【目標値】 平成 35 年度 100 指数					
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	
100 指数	100 指数	100 指数	100 指数	100 指数	100 指数	
#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	